

クマノチョウジゴケ *Buxbaumia minakatae* S.Okam.

【評価理由】

本種は全国的には広く分布するものの、その出現率はきわめて低く、記録は稀であり、いわゆる珍品の名で呼ばれる。湿った樹林内の倒木の上などで発見されるが、そのような環境が少なくなっているため、今後発見される産地も含めて注意していく必要がある。

【形態】

同属のウチワチョウジゴケと同様、配属体はほとんど発達せず、孢子体のみが特異な発達をするため、一見して本属であると認識できる。ウチワチョウジゴケの蒴には稜があり、ウチワ状を呈するのに対し、クマノチョウジゴケの蒴には稜がなく、円筒形なので、両者は容易に区別ができる。

【分布の概要】

【県内の分布】

現在記録されている産地は6ヶ所（新城市（旧鳳来町）に3ヶ所、東栄町、岡崎市（旧額田町）、豊川市（旧一宮町）に各1ヶ所、いずれも三河に属する）であるが、生育基物が腐りかかった倒木などであり、以前記録された場所に今も残っている可能性は少ない。

【国内の分布】

北海道から本州にかけて分布する。

【世界の分布】

シベリア及び北米東部に分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

生育地は湿度の高い深山の樹林の林床で、ある程度腐った倒木上などに生育する。他のコケ植物と混生することはほとんどなく、各個体が単独で点在する。

【現在の生育状況／減少の要因】

県内で現在記録されている産地は、前述のように6ヶ所であるが、生育場所が腐りかかった倒木上ということもあり、以前記録された場所に今も残っている可能性は少ない。また、生育に適した湿り気の多い深山樹林の環境が少なくなっている。

【保全上の留意点】

分布の範囲は広いが、出現率が極めて低く、綿密な調査で稀に発見されるいわゆる稀産種であり、生育に適した深山樹林の環境の保全が重要である。

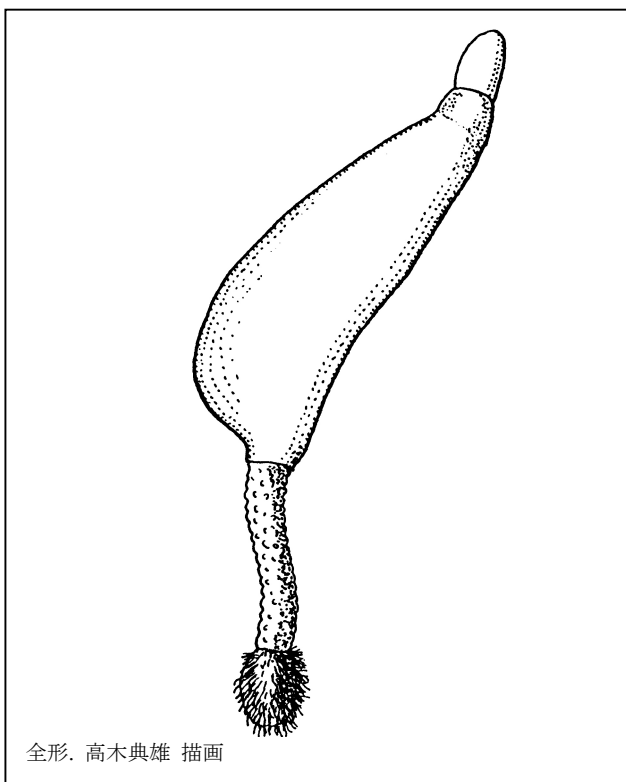
【特記事項】

分布域は広いが、産地は局所的に隔離している稀産種。生態的にも極めてデリケートな環境を選ぶ。その生育を支えている生理的条件、生態的条件の究明は今後の大きなテーマとなるであろう。

和名に「クマノ」の名がついているのは、本種の最初の発見地が熊野（和歌山県西牟婁郡近野村（現在の中辺路町））であることに基づく。

【関連文献】

高木典雄, 1988. 東三河産キセルゴケ類の蘚類. 鳳来寺山自然科学博物館館報, 18: 19-26.



全形. 高木典雄 描画

県内分布図

